

静岡県立大学 国際関係学部 国際関係学科 学校推薦型（公募制）

私は高校入学時から県内の大学を志望していました。また、高校生活を通して英語や国際関係に関心を持ったため、国際関係学部がある静岡県立大学を志望しました。

推薦を目指すにあたって1番頑張ったことは評定をとることです。国際関係学部は各学科1人ずつしか推薦を受けることができないため、できる限り高い評定をとることを目標にしていました。定期テストは約3週間前から準備を始め、学年順位10番以内を目標に何度もワークや単語帳、教科書を読み返したり解いたりしました。出願条件の中に数学の評定が3.5以上という条件がありましたが、私は数学がとても苦手だったので早くから勉強を始めるようにしていました。難易度が低い問題や基礎問題で確実に点が取れるようにしながら、少しずつ解ける問題を増やしていったことで評定を安定させることが出来たと思います。行きたい大学が決まっている人は、早めに出願条件を確認しておくことをオススメします。

学業以外の面では、課外活動や探究活動に参加するようにしていました。これらの活動に参加したことで、より将来のビジョンが明確になったり、面接でも学部への適性がアピールしやすくなったりしました。運動部や活動日数の多い部活に所属していて参加する時間が無い！という人もいるかもしれませんが、ぜひ時間を見つけて興味があることをどんどん深めていってください。

試験内容は個人面接と小論文でした。面接は担当の先生につくってもらった質問シートを元に面接ノートを作り、10月中旬から週に1回のペースで練習をしていただきました。本番1週間前からは国際科や英語の先生にも協力していただき、ほぼ毎日練習をしました。複数の先生に見ていただく中で、思いもよらない観点から質問が来ることもあったので、想定外質問や追求質問にも対応する練習ができました。また、たくさん経験を積むことは自信にも繋がると思います。小論文は過去6年分を国語科の先生に添削していただきました。本番は緊張して時間の感覚がおかしくなるので、本文の読み取り・大体の構成・序論・本論・結論にかける時間を決めておき、普段からその時間で練習しておくといいと思います。また、面接ノートを作る時に大学で特に学びたい分野を深く調べていたことで小論が書きやすくなったので、得意分野を1つ作っておくと良いかもしれません。

本番は、最初に小論文をやってから昼休憩、面接という流れでした。休憩時間や面接の待ち時間がかなり長いので、面接ノートや関連資料は絶対に必要です。これら以外にもお守りや友達からメッセージを書いてもらったもの等を持っておくと、緊張や不安が少し和らぐので持つのがオススメです。面接官はうなずきながら聞いてくださる方だったので、むしろ練習の時よりも落ち着いて受け答えすることができました。

合格するまでの道のりは不安や緊張でいっぱいだと思います。そんな時こそ自分を信じて最後まで駆け抜けてください。皆さんが明るい春を迎えられることを心から応援しています。